

その他のイベント



いらんもの大市

日時：3月13日(土) 11:00-19:00 / 場所：港まちポットラックビル / 予約不要

アーカイブプロジェクトの活動を通して、まちのみなさんから引き受けてきた数多くの「いらんもの」は、どれも魅力的で味わい深い古道具ばかり?会期中は、それらを会場にて展示し、来場者のみなさんにおすそわけします。また、デザイナー・小島邦康さんが「いらんもの」についてのユニークな見立てを紹介する企画も進行中。3月13日には、港まちで開催される暮らしのマーケット「みなと土曜日」(10:00-16:00)に合わせ、「いらんもの大市」を開催!一点ものが多いので、早い者勝ち! ※ものによっては、会期終了後のお渡しにさせていただく場合がございます。



写真：三浦知也

申込方法

港まちづくり協議会のWEBサイト、またはメール (info@minnatomachi.jp) にて、[氏名・連絡先・参加人数・希望するイベント名]を明記の上、各イベント開催の3日前までにお申込みください。定員になり次第、受付を締め切らせていただきます。



同時開催

MAT Exhibition vol.09

名古屋 x ペナン同時開催展：
名古屋文化発信局

日時：2月16日(火)-3月13日(土)
11:00-19:00
会場：港まちポットラックビル3階



撮影：今井正由己

港まちでは、これまで数多くのアーティストが滞在制作を行ってきました。コロナ禍で移動が困難になったいま、オンラインでアーティストとまちが交流する共同制作展を行います。自由貿易都市として発展してきた歴史を持つマレーシアのペナン島と名古屋港をつなぎ、2つの地域から7組のアーティストが参加。2会場に「名古屋文化発信局」を立ち上げ、都市をテーマにリサーチ・制作した作品を発表します。

Super Exhibition vol.04

木村充伯
見知らぬ人

日時：2月16日(火)-3月13日(土)
11:00-19:00
会場：スーパーギャラリー



撮影：都甲ユウタ

動物などをモチーフに彫刻作品を発表するアーティスト、木村充伯の個展。木彫の技法を用いた作品では、チェーンソーによって作品表面に哺乳類や鳥類の毛や羽を作り出します。おどけた表情をもつ動物たちの目が見つめる先は、自然のサイクルのなかで、動物たちとの共同体であることを忘れつつある人間に向かっていくかもしれません。まるで街角に動物園が出現したかのような楽しい展覧会です。

展覧会

こんにちは!港まち手芸部です。
vol.4

日時：1月23日(土)-3月13日(土)
11:00-19:00
会場：港まちポットラックビル2階



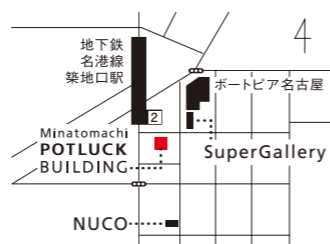
写真：江本典隆

2017年に活動を開始した港まち手芸部は、港まちに住む手芸の達人から手芸を学ぶ場として、編み物を中心に制作しています。今年で4回目となる本展では、部員の作品や編み図、活動記録写真などを展示します。また、テライシヨウタさん (from Gofish) 作詞作曲による手芸部のテーマソングのメイキング映像も上映します。

お問い合わせ

港まちづくり協議会
JOINT COMMITTEE OF PORT TOWN

港まちづくり協議会事務局
〒455-0037 名古屋市港区名港1-19-23
Minatomachi POTLUCK BUILDING



Tel: 052-654-8911 / Mail: info@minnatomachi.jp / Web: minnatomachi.jp
アクセス：名古屋市営地下鉄名港線「築地口駅」2番出口より徒歩1分

続
まちを残す
people talk about
what they do
のイトセトラ
2020.6.27 [Sat.]
-9.26 [Sat.]
2021.1.23 [Sat.]
-3.13 [Sat.]
まちをつくるアーカイブプロジェクト
05
のつづき

まちを残す

people talk about
what they do のイトセトラ展

2021 1/23(土) — 3/13(土) 11:00-19:00

会場 | 港まちポットラックビル2階
休館日 | 日曜・月曜・祝日
入場 | 無料

※1月27日(水)、2月10日(水)、2月24日(水)は、展示をご覧いただけるのが13:00からとなります。/新型コロナウイルス感染症の状況等により、会期、実施内容等が変更となる場合があります。/入館時は、マスクの着用、受付にてご記名・検温をお願いいたします。/最新情報はウェブサイトにてお知らせします。

み(ん)なとまちをつくる
アーカイブプロジェクト 05
の続編

主催

港まちづくり協議会
JOINT COMMITTEE OF PORT TOWN

「続・まちを残す」って?!

港まち誕生100周年を機に、「もう既にあるまち」を見据えながら、改めて「まちづくり」を思考しようとする私たちが見つめてきたのは、その歴史であり、それを生きてきた人々の記憶であり、それらが宿る数々の写真や古道具といったモノたち。浮かんできたのは、単なる憧憬や懐古ではなく、未来を拓くためのインスピレーションでした。それらの一つひとつはささやかでも愛おしいオリジナル。しかし、いいなと感じるものを残

展示コンテンツ 「まちを残す」ための記録

文で残す 暮らす人、働く人、今を生きるさまざまな港まちに関わりある人々へのインタビュー。現在は51名、期間中100名の語りの集積を目指す。

声で残す 機関紙「ポットラック新聞」に連載中の「港まちのにぎやかな民俗誌」のセレクトを、港まちの方々の朗読で収録。ラジオ深夜便のよう。

トークイベント 「まちを残す」にまつわる実践者たちの語り

※会場は、全て港まちポットラックビルにて開催します。 ※要申込。申込方法は裏面をご確認ください。

vol. 1

私たちにできるのは、場をつくることだけ

日時：2月12日(金) 18:00-19:30 / 定員：10名 / 参加費：無料 / ゲスト：千賀信義

「東別院暮らしの朝市」は、東海地方最大級の定期市。その裏方を実行委員会の一員として支えるのが千賀さん率いる制作会社レジスタの皆さん。港まちで始まったばかりの小さな定期市は、レジスタとの協働プロジェクトですが、そこにはすでに顔馴染みのファンが生まれつつあります。出店者さんが気持ちよく商売できるように最善を尽くしつつ、「私たちにできるのは場づくりだけです」と慎ましい。目指すのは、定期市開催地域に暮らす人々の日々の幸せづくり。そんなレジスタの千賀さんのバックグラウンドや今後の展望等、中々聞けない稀少なお話を伺います。



多くの人が訪れる東別院の朝市



千賀信義

せんが・のぶよし：愛知県春日井市出身の34歳。幼少期から人と変わったことをするのが大好き。教職員の両親を悩ませた。大学2年生の時に友人と通販サイトを起業。さまざまな出会いや経験を積み、自分が生まれ育った春日井市や好きな「まち」への恩返しを決意し、地域密着の朝市にボランティアとして参加。現在は東別院界隈でのまちづくりに携わりながら、株式会社レジスタの代表を務める。趣味はグルメと海外のマーケットを巡る旅。

日時：2月19日(金) 18:00-19:30 / 定員：10名 / 参加費：無料 / ゲスト：堀江浩彰、山田真理子

2021年1月末に名駅西に元旅館という物件をリノベした「OMYAGE NAGOYA」がオープン。プロジェクトの中心にいる堀江さんと山田さんは、2019年にも同エリアに「MEAT PIES MEET」をスタートさせて名駅西に留まらないソーシャルビジネスやまちづくり界隈を沸かせてきました。そんなお二人が大切にしているのは、自分の好きな街の風景を残すこと。それは建物だけでなく、人でありご縁。馴染み認められる中で、頼り頼られる関係性を仕事と暮らしの中に育むこと。至極真っ当。でもだからの奮闘も。きっと大事なお話が聞けると思います。



木の香り漂う「OMYAGE NAGOYA」



堀江浩彰



山田真理子

ほりえ・ひろあき：名古屋駅西「ホリエビル」&「ホリエビルANNEX」オーナー / ONLY FREE PAPER NAGOYA、Gallery NA2店主 / 広告デザイン・有限会社RADICAL プロデューサー / フリーペーパー『屋上とそらfree』編集長・屋上写真家

やまだ・まりこ：ひきこもり支援団体NPO法人オレンジの会に2004年から勤務 / 社会福祉士 / 名古屋西で働き暮らし遊んでいます。

2人の協働プロデューサー：地元の名古屋駅西で包みパイ専門店「MEAT PIES MEET」(2019年11月)、セレクト土産物店「OMYAGE NAGOYA」、「創業令和元年たつの屋」(2021年1月)をNPO法人オレンジの会との協業でプロデュース。

vol. 2

自分たちが好きな街の風景を残したい

歌で残す 港まちのさまざまをインスピレーションにミュージシャンが制作した歌を収録。「残す」とは「新たな表現」の異名でもあると改めて。

映像で残す 港まちで制作されてきた映像をご紹介します。まちな人々の語りを元にしたワークショップ「それいいなあをやってみる」の映像も公開予定。

POTLUCK SCHOOL 2020-2021

vol. 3

今こそ一緒に考えたい、「残す」は、ずっと考えられてきた大切なテーマなのです

vol. 4

歴史の中に、物語がある

vol. 5

まちの未来を拓くために本とはなんだろう?!

vol. 6

空き家を資源に街の未来を拓く……え、どうやって?!

日時：2月26日(金) 18:00-19:30 / 定員：10名 / 参加費：無料 / ゲスト：高森順子

阪神・淡路大震災の経験を手記集として出版する市民活動に従事する高森さんは、災厄の経験を表現する人々との協働を実践する研究者でもあります。その最新の記録集では、手記をまとめた人々へのインタビューを初めて追加。伝えたかったのは、「書く」と話すの切実さと軽やかさのギャップ」だったとか。何かを「残す」ことの方法論は多様で、正解は一つとは限らない。では、私たちは何をどう残していくのでしょうか? 「〇〇を残す」そのあり方と豊かさについて高森さんと一緒に考えてみます。



アクションリサーチにおけるインタビューの様子



高森順子

たかもり・じゅんこ：1984年神戸市生まれ。大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程満期退学。愛知淑徳大学助教。専門はグループ・ダイナミクス。2010年より阪神・淡路大震災の手記集制作を行う「阪神大震災を記録しつづける会」事務局長。2014年に井植文化賞受賞。2011年より3年間「人と防災未来センター」において災害アーカイブに関する実務を担当。被災体験の共有の場の創出に関するアクションリサーチを継続している。

日時：3月5日(金) 18:00-19:30 / 定員：10名 / 参加費：無料 / ゲスト：本原令子

「ARTORO (アートロ)」は静岡県にある弥生時代の遺跡「登呂遺跡」を舞台に、「土さえあれば生きていける」を合言葉にして、土を通して作る・食べる・生きるという循環を実践・体験していくアートプロジェクト。2013年にこの活動をスタートさせた陶芸家の本原さんは「弥生時代の人も、同じ人間。私たちの祖先が悩んで考えて、選んできた結果が今の暮らし」といいます。活動を通して出てきた「なぜ?」を放っておかず、自分の手で確かめながら、先人たちの考えや工夫を発見し、共感する。そんなARTOROが大切にしている時代を超えた縦の繋がりを通して、今の暮らしや社会について本原さんと一緒に考えてみます。



登呂遺跡で田んぼを作り、米を収穫し、食べる



本原令子

もとはら・れいこ：陶芸家・美術家 / 1963年静岡県生まれ。1992年ロイヤル・カレッジ・オブ・アート(イギリス)セラミクス修了。「土」を使った表現は焼き物に限らず、映像やパフォーマンス、ワークショップなどへも展開。2011年ヨーロッパ・セラミック・ワークセンター(オランダ)にてアーティスト・イン・レジデンス。2013年より静岡市の登呂遺跡で稲作から道具作りまで実験的活動をするアートロの企画を監修。

日時：3月12日(金) 18:00-19:30 / 定員：10名 / 参加費：無料 / ゲスト：鈴木創

「いにしえの本といえば、粘土板」と話し始めたのは、名古屋の古書店シマウマ書房の鈴木さん。古来より人は自分たちの記録を身の回りのさまざまな媒体に刻んできました。粘土板や羊皮紙の本が風雪に耐えた歴史書として今に伝わっていると聞くと呼吸が少し深くなります。自分たちにとっての「大事なこと」を懸命に残した記録が、またいつか未来の誰かの可能性を拓くかもしれない。「まち≒人と社会とその関係」と仮説したとき、それらを繋いでいく上で「本≒記録」が果たす役割とは何でしょう。鈴木さんと一緒に考えてみたいと思います。



移転先の今池にある新店舗



鈴木創

写真：三浦知也

すずき・はじめ：2006年に名古屋市中・本山にてシマウマ書房を開業。08年から10年続いたブックイベント「ブックマークナゴヤ」の実行委員としてさまざまな催しに関わる。14年、港まちづくり協議会の「みなとまちブックフェア」に企画協力。19年に今池に店舗を移転。著書に『なごや古本屋案内』(風媒社)、「朝日新聞」東海文化面にてコラム「本の虫」連載中。

日時：3月19日(金) 18:00-19:30 / 定員：10名 / 参加費：無料 / ゲスト：水谷岳史、藤田恭兵

「さかさま不動産」というヘンテコな名前を耳にしたのはいつ頃のことだったでしょうか。今や彼らの周囲には老若男女を問わず多くの“想い”のある人々が集結し、課題を抱える各地の行政が続々と相談を寄せられるようになってきたとか。その活動を間近に見て、まず感じるはその熱量。具体的な提案とガッツある行動力。そして圧倒的に人たらし(笑)。9年後には40%をこえると言われる空き家を街の資源と見立て、志の高い人々を呼び込み、コミュニティの力を支援して地域社会を元気にする。そんな「さかさま不動産」のアプローチの真髓に迫ります。



にぎやかな空き家改修の様子



水谷岳史



藤田恭兵

みずたに・たけふみ：1988年生まれ。三重県桑名市出身。家業が庭師で10代の頃から家の仕事を手伝う。誰もが自由に挑戦と失敗ができる社会をつくりたいという想いのもと、株式会社On-Coを設立。仮説と実証実験を繰り返し続けている。

ふじた・きょうへい：2019年に水谷と株式会社On-Coを設立。Web制作ディレクション、動画撮影編集、ライブ配信など会社のテクノロジー周りを主に担当している。生息地は主に名古屋。